

「福島復興への責任を果たすために」

～福島復興へ向けた取り組み～

（第13版）

2020年3月25日

東京電力ホールディングス株式会社
福島復興本社



福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所の事故により、震災から9年以上が経過した今なお、発電所周辺地域の皆さま、福島県の皆さま、そして広く社会の皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

今春、福島第一原子力発電所の立地町である双葉町において初めて、さらには大熊町、富岡町でも一部地域で避難指示が解除され、また、JR常磐線が全線開通されるなど、復興への新たな動きが見られます。一方で、今もなお、多くの皆さまが避難を余儀なくされている状況が続いております。

復興が進み、ひとりでも多くの皆さまにご帰還いただけるよう私自身が福島復興本社の先頭に立ってより一層地域の皆さまに寄り添った活動を加速させてまいります。

「福島への責任を果たす」ことが我々の使命であり、原点です。このことをしっかりと胸に刻み、これからグループ一丸となって福島復興に向けて活動を進めてまいります。

2020年3月

福島復興本社代表 大倉 誠

福島復興本社の組織体制

福島本部

主な業務：各所と連携した地域対応、廃炉資料館の運営、復興本社代表補佐
設置箇所：富岡町（浜通り電力所・総括箇所）等

主な業務：国、自治体と連携した復興本社の施策立案、諸計画策定、地域のみなさまからのご要望への対応策の立案
設置箇所：東京（統括箇所）、富岡町（浜通り電力所）等

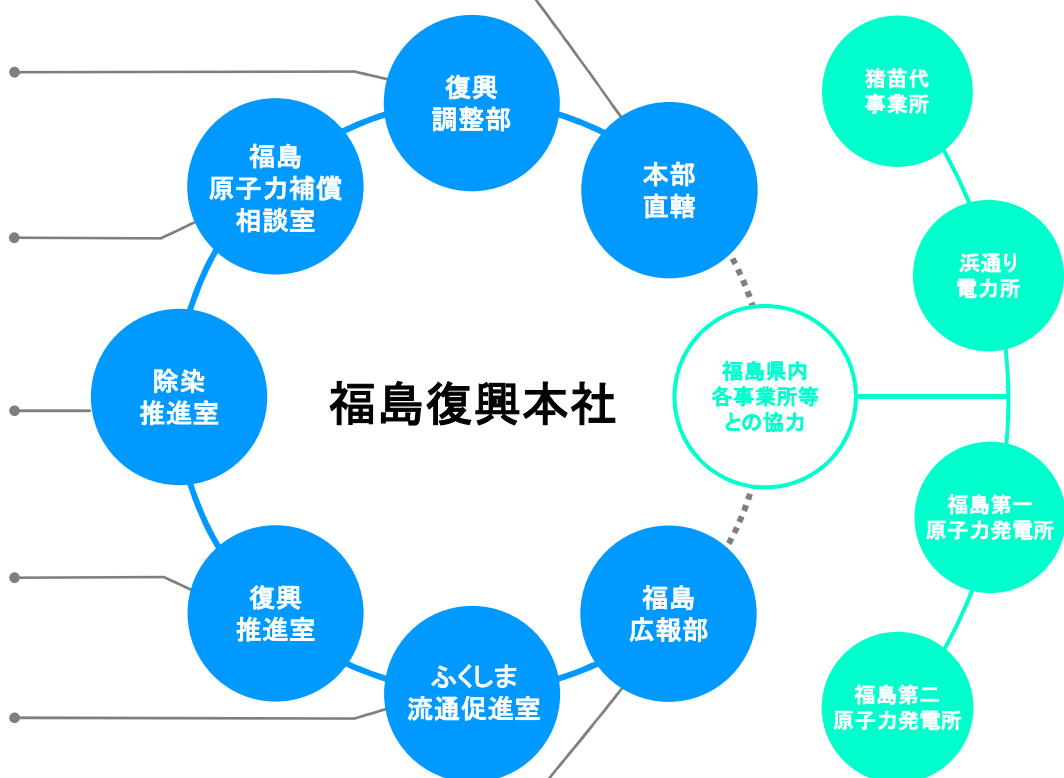
主な業務：賠償業務（円滑かつ早期の貫徹）
設置箇所：福島市（総括箇所）いわき市、郡山市、会津若松市、南相馬市、東京等

主な業務：除染等推進業務（国・自治体による除染後のフォロー・中間貯蔵事業・環境回復に対する人的・技術的貢献等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）等

主な業務：復興推進業務（帰還に向けた除草や片付け、農業再開に向けたお手伝いなど県内における人的貢献等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）、相模町、南相馬市等

主な業務：福島県産品の販路開拓・購入促進に向けた取り組み
設置箇所：東京

主な業務：広報業務（県内の原子力・火力・水力発電所ならびに賠償・除染・復興推進の状況の広報活動等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）



(2020年4月予定)

本資料は、第12版(2020年10月発行)に記載した内容に、その後の取り組みの追加や実績の更新等を行い、改めてとりまとめました。※各取り組みの右上に「新規」、「更新」の表示あり

1.復興に向けた当社の取り組み（ページ）

1.除染等推進活動

1. 除染等への対応	3
2. 中間貯蔵への対応	7
3. 廃棄物・リサイクル等への対応	9
4. 環境回復・コミュニケーションへの対応	10
5. 技術開発	18

2.復興推進活動

1. 「避難指示解除」に向けた取り組み	19
2. 清掃・片付け	20
3. 除草作業	21
4. 荷物移動・整理	23
5. 仮設住宅の除雪	25
6. 一時帰宅対応	26
7. 営農再開等に向けた対応	27
8. イベント対応	28
9. 地域の皆さまへのお声掛け・訪問やお手伝い	29
10. 学校再開に向けた協力／放射線量測定対応	30
11. 福島県内への派遣活動／刈払機の安全教育	31
12. 櫛葉町におけるサツマイモ栽培へのお手伝い	32

3.流通促進活動

1. 福島県産品販売促進活動	33
2. 福島県産品の販路拡大に向けた取り組み	34
3. 福島県産品の風評被害払拭に向けた取り組み	37
4. 「発見！ふくしま」キャンペーンの実施	38
5. ふくしま応援企業ネットワークの取り組み	39

4.雇用創出等福島復興に資する取り組み

1. 構築した事業体制による世界最新鋭の石炭火力発電所の建設・運営	40
2. 中小経年水力発電所の設備改修	40
3. 福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力	41

5.福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状等の情報発信

1. 「東京電力廃炉資料館」	42
----------------	----

6.原子力損害賠償

1. 迅速な原子力損害賠償に向けた組織体制／補償相談センター	43
2. 補償相談コールセンター／補償推進ユニット	44

7.活動実績

1. 活動の実績	45
----------	----

1.除染等推進活動

除染等への対応（帰還に向けた施策）

<避難指示解除前の線量確認・現地調査>

- 実施日：2014年5月～2017年3月
- 実施場所：福島県 富岡町、浪江町、飯館村、川俣町(山木屋地区)
- 内容：環境省からの要請により、避難指示解除前の確実な線量低減に向けた、本格除染およびフォローアップ除染における線量確認や、除染手法等提案のための現地調査を実施
※ 帰還困難区域を除く
- 実績：延べ約30,860人



【富岡町モニタリング状況】
（除染前の現地調査状況）



【浪江町モニタリング状況】
（除染中の線量確認状況）



【飯館村モニタリング状況】
（除染前の現地調査状況）



【川俣町モニタリング状況】
（除染中の線量確認状況）

<避難指示解除前の富岡町夜の森地区桜並木の通りの現地調査>

- 実施日：2017年3月7日～3月9日
- 実施場所：福島県 富岡町
- 内容：環境省からの要請により、避難指示解除前の富岡町夜の森地区の桜並木がある通り（約300m）における線量確認等の現地調査を実施
- 実績：延べ6人



【本格除染後の線量確認状況(1)】



【本格除染後の線量確認状況(2)】

1.除染等推進活動

除染等への対応（学校施設等）

■実施日：2016年10月～2017年11月

■実施場所：福島県 川俣町、富岡町、浪江町、葛尾村、飯舘村

■内 容：環境省からの要請により、2018年4月からの学校再開に向けて、校舎内・施設周辺等の空間線量率測定やプールの水質調査・分析等を実施

■実 績：延べ502人



【モニタリング状況(学校敷地)】
山木屋小中一貫校(川俣町)



【 プールの水採取状況
富岡第一中学校(富岡町) 】



【モニタリング状況(こども園周辺)】
浪江にじいろこども園(浪江町)



【モニタリング状況(植栽部周辺)】
葛尾小学校(葛尾村)



【モニタリング状況(学校施設内)】
飯舘中学校(飯舘村)

■実施日：2016年10月24日～12月12日

■実施場所：福島県 南相馬市 小高区

■内 容：環境省からの要請により、「福島県立小高産業技術高等学校」の2017年4月の開校に向けた、学校生活に係る箇所(学校敷地や小高駅前周辺等)のモニタリングを実施

■実 績：延べ19人



【モニタリング状況(学校敷地)】



【モニタリング状況(小高駅前周辺)】

1.除染等推進活動

除染等への対応（帰還後の安心に向けた施策）

更新

■実施日：2015年5月～

■実施場所：福島県 南相馬市、川内村、葛尾村、檜葉町、富岡町、浪江町、川俣町、飯舘村

■内容：環境省からの要請により、住民の方々がご不安に思われる箇所の現地調査や
土壌除去等を実施

※避難指示が解除された各地域で、同省と連携し実施中

■実績：延べ5,679人（2020年2月末現在）



【簡易土壌除去状況（南相馬市）】



【現地調査状況（川内村）】



【現地調査状況（浪江町）】



【現地調査状況（富岡町）】



【現地調査状況（飯舘村）】

除染等への対応（仮置場の原状回復に向けた対応）

更新

■実施日：2017年8月～

■実施場所：福島県 檜葉町、浪江町、飯舘村、大熊町

■内容：環境省からの要請により、除去土壌等の搬出が完了した仮置場の原状回復に
向け、仮置場跡地の空間線量率や表面汚染密度、表土中の放射性物質濃度の
測定等に協力

■実績：延べ586人（2020年2月末現在）



【空間線量率の測定状況】



【表面汚染密度の測定状況】

1.除染等推進活動

特定復興再生拠点区域における除染への協力

新規

実施時期 2017年12月～

実施場所 福島県 双葉町、大熊町、浪江町、富岡町、飯舘村、葛尾村

実施人数 延べ6,809人（2020年2月末現在）

実施内容 環境省からの要請により、特定復興再生拠点区域の除染作業において技術的協力を実施
 ①除染前後の線量調査・汚染状況確認
 除染前・後にシンチレーション式サーベイメータを使用し、地表から1m高さの空間線量率を測定
 ②除染工法検討の技術支援
 除染前の線量調査結果による除染工法検討の技術支援

各地域の実施内容



中間貯蔵への対応（輸送量拡大に向けた対応）

更新

- 実施日：2016年4月～
- 実施場所：福島県内全域
- 内容：環境省からの要請により、仮置場から中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送量拡大に向けた、技術検討・展開実態調査※および現場監督への技術支援を実施
※運搬時の遮水対策や保管容器への効率的な収納方法など
- 実績：延べ49,616人（2020年2月末現在）



【荷台遮水対策の実施状況確認】



【現場監督への技術的支援】

中間貯蔵への対応（輸送に係る講習会）

- 実施日：2016年5月～2017年5月
- 実施場所：福島県内
- 内容：環境省からの要請により、除去土壌等の輸送を安全かつ円滑に実施するため、仮置場の解体・輸送業務監督員等へ講習会を実施
輸送量の増大に伴い、新たに監督業務に就かれる方々に対して、試験（パイロット）輸送時の経験に基づき、仮置場から除去土壌等搬出時の確認項目や着目点等について説明
- 実績：延べ38人



【講習会（机上）の状況】



【講習会（仮置き場）の状況】

○環境省指示および施工計画書と対比して適切に施工されているか確認する
○詰め込んだ数量を確認する（日報もしくは踏査取り）



・高さ確認状況



・2箇目詰め込み状況

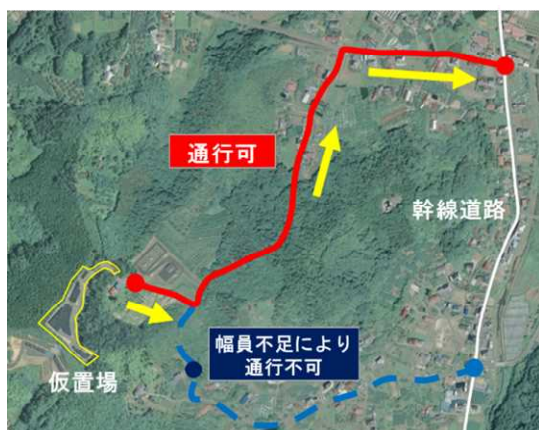
【解説】可燃物の自然減容により容量が減った保管容器を集約

【講習会資料（ポイント集）の一例】

中間貯蔵への対応（中間貯蔵施設への輸送ルート調査対応）

更新

- 実施時期 2016年3月 ～
- 実施場所 福島県内の仮置場等：713箇所
- 実施人数 延べ 2,253人（2020年2月末現在）
- 実施内容 環境省・自治体からの要請により、仮置場等から中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に先立ち、安全に通行可能な輸送ルートを確認するため現地調査等を実施



【幹線道路までの輸送ルート検討例】

出典：地理院地図（電子国土Web）をもとに東京電力H D株式会社が作成



【輸送ルートの幅員測定状況】



【輸送ルートの支障物高さ測定状況】

中間貯蔵への対応[現場保管（地下保管）から除去土壌等の搬出]

- 実施時期 2017年12月1日 ～2018年3月
- 実施場所 福島県 桑折町
- 実施人数 延べ 60人
- 実施内容 桑折町からの要請により、学校施設の地下に保管してある除去土壌等約1,700m³を円滑に搬出するため、技術的支援や埋め戻し前の線量確認等に協力



【埋め戻し前の線量確認状況】



【埋め戻し中の確認状況】

＜滞留牛ふん堆肥の流通回復＞

■実施日：2013年5月23日（初回運搬）～2016年6月末

■内容：暫定許容値（400Bq/kg）以下の滞留堆肥の流通を促進させるため、県及び地元自治体等が、各地域の滞留堆肥供給者と受け入れ先とのマッチングの調整を行い、当社は堆肥の運搬・散布作業を手配

■取組実績：県内17の地域協議会等と実施協定を締結し、各地域で実施

・最終的な滞留解消量は、延べ約10万2千トン

これは約5千ヘクタール※の畑への散布に相当（東京ドーム1,091個分）

※1トンの堆肥の散布面積を5アールとして算出



【滞留堆肥の解消量（累計）】



散布準備



散布

【堆肥散布の状況】

＜海岸防災林の再生＞

■実施日：2016年4月15日～4月16日

■実施場所：福島県 相馬市

■内容：津波により被害を受けた海岸防災林の再生に向け、NPO法人日本バーク堆肥協会が主催する植栽活動に参加
相馬市磯部地区において、クロマツを植栽

■実績：延べ15人



【クロマツの植栽】

＜避難指示区域内残置自動車＞

■実施日：2013年9月～

■実施場所：福島県 富岡町、楡葉町、浪江町、大熊町

■内容：環境省からの要請により、公道および公共施設に残された自動車の実態調査を実施
富岡町、楡葉町、浪江町、大熊町で順次実施し、当社に賠償請求中および賠償済みの残置自動車※について、撤去・処分に関するご意向確認の案内文書を所有者さまに発送
※公道・公共施設・ご自宅等にやむを得ず残された自動車が対象

■実績：延べ425人（2020年2月末現在）



【現地調査状況】

1.除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（イノシシ（獣害）対策）

<イノシシ生息状況調査>

■実施日：2018年3月6日～4月27日

■実施場所：福島県 富岡町

■内 容：富岡町と協働で、住民の生活環境に影響を与えているイノシシの生息状況（生息域・頭数）の調査方法について実証試験を実施。調査方法は赤外線カメラを搭載したドローンにて夜間撮影を行い、イノシシの生息状況を確認。※調査範囲 約30ha

■調査結果：今回の調査エリアにおいて、イノシシ約20頭の生息を確認

■実績：延べ14人

昼間調査（2018年3月12日）



【ドローンによる事前調査状況】
（飛行ルート・安全確認等）

夜間調査※（2018年3月13日）



【ドローンにより空撮した生息状況（水田エリア）】
（赤外線カメラで撮影）

<イノシシ追い払い実証試験>

■実施日：2018年9月20日、10月3日

■実施場所：福島県 浪江町（両竹地区）

■内 容：超音波発信機を搭載したドローンでイノシシに接近し、超音波がイノシシを追い払う効果があるかを検証

■試験結果：超音波を発信しているドローンの接近によりイノシシが逃げ出すなど一定の効果を確認。引き続き、超音波の効果検証とドローンによるイノシシへのアプローチ手法等、効果的な追い払い方法について検討要



【実証試験状況】



【上空からイノシシに接近した状況】

1.除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（避難区域等のモニタリング）

<特定復興再生拠点区域におけるモニタリング等への対応>

■実施日：2018年8月～2019年3月

■実施場所：福島県双葉町（双葉駅）、大熊町（大野駅）、富岡町（夜ノ森駅）

■内容：内閣府からの依頼により、特定復興再生拠点区域におけるＪＲ常磐線３駅周辺の避難指示解除に向けて、モニタリング等を実施（ＪＡＥＡと協同で対応）

- ①歩行モニタリングによる駅周辺での空間線量率測定
- ②走行・歩行による駅周辺での放射性物質の付着調査
- ③公共施設での残置物の表面汚染密度測定
- ④内部被ばく評価のための駅周辺での大気浮遊粉じん採取

■実績：延べ237人



【①歩行モニタリング】



【①歩行モニタリング】



【②放射性物質の付着調査】



出典：地理院地図（電子国土Web）

調査結果については、内閣府が公表した「特定復興再生拠点区域における放射線防護対策に関する骨子案及び調査結果について」（2018年11月）を参照

調査結果URL

<https://www.nsr.go.jp/data/000254389.pdf>



【③残置物の表面汚染密度測定】



【③残置物の表面汚染密度測定】



【④大気浮遊粉じん採取】

1. 除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（檜葉町「天神原湿原」再生・保全）更新

- 実施時期：2017年1月～
- 実施場所：福島県 檜葉町
- 実施人数：延べ419人（2020年2月末現在）
- 実施内容：檜葉町「天神原湿原」について、檜葉町と連携し、再生・保全へ向けた取り組みを継続展開

1. これまでの再生・保全の取り組み内容

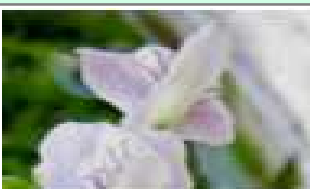


2. 埋土種子からの希少食虫植物再生試験

- 絶滅したと思われる希少な食虫植物（2種）の再生を目指す
- 湿原に種子が残っていることを期待し、発芽試験を実施中



ヒメタヌキモ



ムラサキミミカキグサ

<プランター再生試験>

- ・実施場所：檜葉町まなび館理科室前
- ・試験期間：2018年3月～継続実施中
- ・試験方法：プランターに湿原内で採取した土壌を敷き詰め、水位を土壌表面が浸かる程度に維持。週に1回観察を行い、発芽状況と水温を確認し、適宜、外来種などの除去を実施



3. 今後の計画

- オオミズゴケ（準絶滅危惧種）の湿原乾燥対策の効果確認
- 埋土種子からの再生試験により天神原湿原の食虫植物など多様性の確保を目指す
- 檜葉町と連携して地元をはじめとした子どもたちへの環境教育などへの協力

<畜産再開に向けた対応>

■実施日：2015年10月～

■実施場所：福島県 福島市、飯館村、楡葉町、川俣町、葛尾村、南相馬市

■内容：各市町村、福島県農業総合センターおよび相双農林事務所からの協力依頼により、畜産再開に向けた、牛の飼育環境における牛舎等の放射線量や飼料等の放射能濃度および個人線量の測定を実施

■実績：延べ1,158人（2020年2月末現在）



【飯館村（飼料のサンプル採取状況）】



【楡葉町（モニタリング状況（牛舎））】

<川俣町山木屋地区における養鶏再開に向けたモニタリング対応>

■実施日：2017年7月～2018年3月

■実施場所：福島県 川俣町

■内容：福島県県北農林事務所からの要請により、川俣町山木屋地区にある3つの養鶏場において、鶏舎周辺の放射線量や井戸水の放射能濃度の測定・分析等、養鶏再開に向けたモニタリングを実施

■実績：延べ40人



【モニタリング状況（鶏舎周辺）】

<原木しいたけ栽培再開に向けた対応>

■実施日：2015年7月28日～2016年3月17日

■実施場所：福島県 田村市、西郷村、中島村

■内容：福島県からの協力依頼により、「原木しいたけ栽培再開のための確認試験」に関する汚染の外部要因（風雨、泥はね等）調査
植菌されていない原木では、泥のはねあがりなど地面からの影響を抑えることで効果があることを確認し、調査結果を県に報告

■実績：延べ230人

模擬原木：粘着シート・不織布を巻いた塩ビ管



【泥はねの影響調査】

採取びん



【雨のサンプリング】

空気を吸引し
浮遊ダストを収集



【ダストサンプラー装置】

- 実施時期 2018年4月末～ ※継続実施中 ■実施人数 延べ141人（2020年2月末現在）
- 実施場所 福島県富岡町
- 実施概要 除染により地力が失われた後、耕作が再開されていない水田の地力回復、景観向上に向けて、緑肥植物の栽培試験を実施
※緑肥植物とは、栽培後の田畑にすき込むことにより土壌改良の作用がある植物
- 試験結果 緑肥植物による地力回復に一定の効果があることが分かった

【1回目（2018年4月）の緑肥栽培の開花状況】

- ◆ ヘアリーベッチ2種とクリムソンクローバーの計3種を栽培
- ◆ 3種類ともに種をまいた後、約1週間で発芽が認められた
- ◆ ヘアリーベッチ2種は、1ヶ月後に開花が認められたが、クリムソンクローバーは、開花前に大半が水はけが悪かったため枯死した

ヘアリーベッチ



発芽



開花

クリムソンクローバー

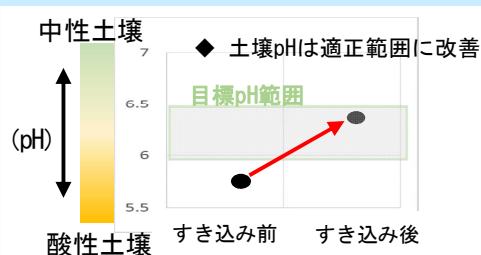


発芽

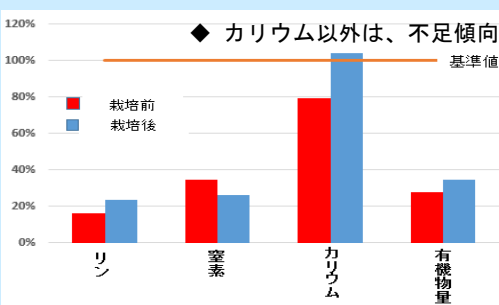


ぐく一部で開花

<土壌酸性度の比較>



<栽培前後の土壌成分比較(水稲基準)>



【2回目（2018年11月）の緑肥栽培の開花状況】

- ◆ 1回目の緑肥植物のすき込み後に他種を加えた6種を栽培したところ、1回目よりも良好な成育、開花を確認



ヘアリーベッチ



クリムソンクローバー



キガラシ



アンジェリア

【取り組みの展開】

- ◆ 2019年7月10日、11日に開催された「第8回環境放射能除染学会の研究発表会(郡山市)」にて報告
- ◆ 栽培試験を継続し、地力回復を図る手法の検討
- ◆ 自治体等に提案し、地域復興の一助となるような取り組みを実施

環境回復・コミュニケーションへの対応（コミュニケーション活動）

<「第1回 高校生が被災地で考える防災サミット in 福島」への協力>

- 実施日： 2018年12月25日～12月27日
- 実施場所： 福島県楡葉町（Jヴィレッジ）
- 内容： NPO法人ハッピーロードネット様からの要請により、「第1回 高校生が被災地で考える防災サミット in 福島」に協力
 - ①参加された全国の原子力発電所立地県の高校生約40名に対し、福島県産の米・野菜・果物を試料とした放射能濃度測定の体験サポートを実施
 - ②放射線の基礎知識に関するパネルを展示等
- 実績： 延べ26人



【測定準備の説明の様子】



【測定結果解説の様子】

<大阪大学「環境放射線研修」への協力>

- 実施日： 2018年9月3日
- 実施場所： 浜通り分析施設（富岡町）、廃炉国際共同研究センター[JAEA]（富岡町）、福島第一原子力発電所（大熊町・双葉町）
- 内容： 大阪大学主催「環境放射線研修(8月31日～9月5日)」の放射能濃度測定等に協力（学生等46名）
当社の分析施設を活用し、学生が自ら採取した土壌・農作物の核種分析・放射能濃度測定の支援や、遠隔操作ロボットの操作体験等
- 実績： 8人



【核種分析・放射能濃度測定支援】



【廃炉作業で使用した遠隔操作ロボットの操作体験】

1.除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（環境回復に向けた技術サポート）

- 概要：避難指示解除後の復興に向け、放射線や放射性物質の測定・分析技術による地域支援の強化に取り組む
 除染等推進活動で蓄積したノウハウを活かし、現場調査から分析・報告までの幅広いニーズに対応可能
 国・自治体等の帰還や営農再開などの取組みに対し、浜通り電力所内にある分析施設を拠点として、総合力で現地ニーズに丁寧にお応えしたい

1. 環境回復に向けた技術サポートの流れ



2. 各種保有技術と技術サポート事例 ～技術力を活かし、幅広いご要望・ニーズに対応～

★自社の開発技術およびノウハウを保有



■実施月日 : 2015年4月～ ■実施人数 : 延べ101人（2020年2月末現在）

■実施場所 : 福島県富岡町（浜通り電力所構内 浜通り分析施設）

- ・ 地域再生や帰還に伴う放射線不安払拭のため、野菜等の食品に対する放射能濃度分析を（分析所開設以来）継続して実施
- 実施内容
 - ・ 国や自治体などが進める復興に向けた事業等において、放射線対策の検討および技術の提案を実施するため、浜通り分析所においてISO17025の認定を取得
 - ・ ISOの認定により検査結果の信頼性向上を図るとともに、地域の安心・安全に繋がる取り組みを展開

■主な放射能分析



※水の採取場所イメージ

水の採取



飼料の採取

【ご要請に基づく分析の実績】

国・自治体からの要請に基づき、2015年4月から土・食品・水等の放射能分析を行っており、4年間で合計9361検体の検査を実施



※食品・果物等のイメージ

食品測定



浜通り分析施設

土壌の採取



■ISO17025認定概要

- 国際標準化機構によって策定された、「品質管理（ISO9001レベル）」と国際的に技術水準を満たした「試験所」に与えられる国際標準規格。※電力会社では初の取得

認定内容	※ ゲルマニウム半導体スペクトロメータを用いた放射能濃度分析
分析対象	土壌、食品、水
放射性核種	セシウム137、セシウム134、ヨウ素131、カリウム40

※「ゲルマニウム半導体スペクトロメータ」とは、高純度ゲルマニウム半導体検出器を用いた高精度の放射能濃度分析装置

技術開発（個人線量計およびGPSを活用した「個人線量マップ作製ソフト」の開発）

■実施日：2016年4月～6月

■概要：空間線量率ではなく、個人線量ベースのマップ作製を容易に可能※¹とするソフトウェアを独自開発

※¹ 当ソフトのご利用には、汎用品の個人線量計※²とGPS端末が必要

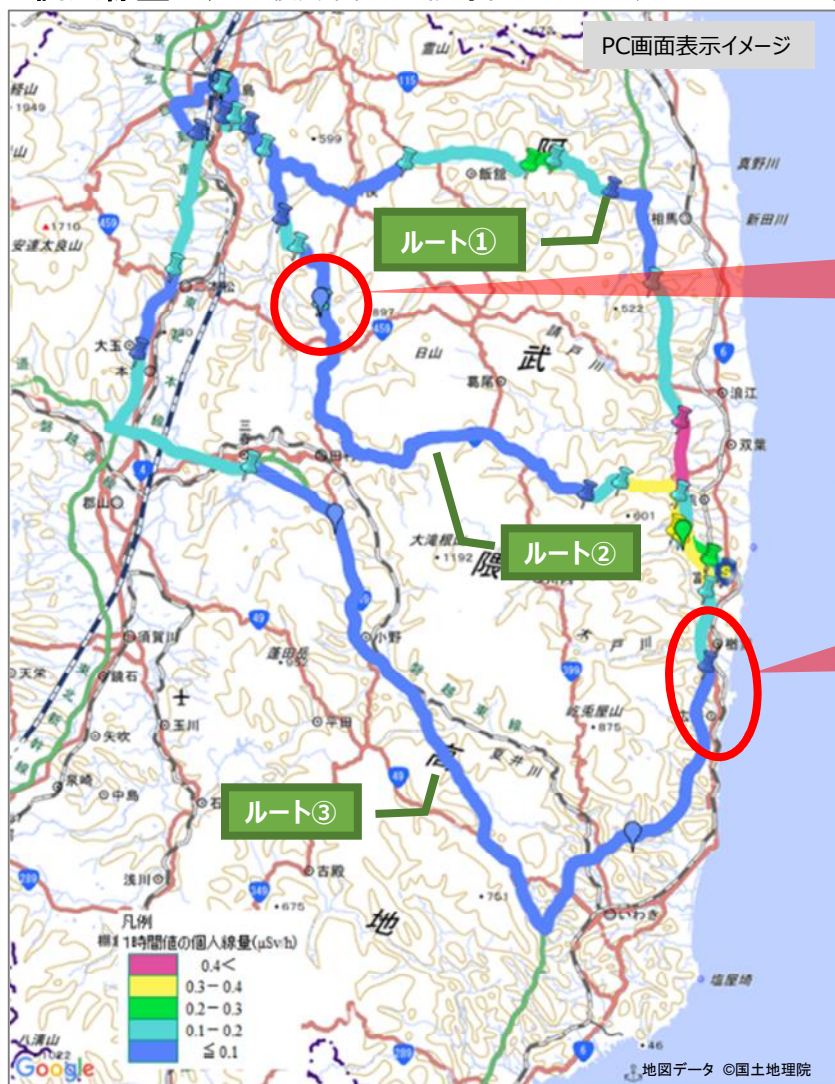
※² 高精度な線量マップ作成には、高頻度(1分単位)で計測可能な個人線量計を推奨（富士電機製 DOSEe-nano等）

- ・以下機能を備えたソフトウェアの開発は国内初（当社調べ）
 - ▶個人線量を行動に沿ってマッピング（線量レベルを色で表示）
 - ▶移動時あるいは滞在箇所を自動判別し、その個人線量を地図上に表示
 - ▶Googleマップ上にも視覚的に表示可能

■活用・展開：2016年6月29日より当社ホームページにて公開中

- ・広くご活用いただけるよう、国・自治体・学術機関等へのご紹介を展開中
- ・当ソフトを活用した帰還・復興への取り組み等に、当社としてサポートを実施予定
- ・ご活用例：「ご自宅や通学路等の個人線量の把握」、「複数の移動経路ごとの個人線量の比較」など

個人線量マップ（復興本社から福島市内までの代表的な3ルート事例）



『滞在時』における個人線量の可視化



- 滞在した場所を自動判別してタグで表示
- タグの色で滞在時の個人線量(1時間値)が直感的に理解できる

『移動時』における個人線量の可視化



- 個人線量を移動経路上に色で示すことにより、移動時の個人線量(1時間値)が直感的に理解できる
- 移動開始～移動終了までの所要時間や個人線量の積算値も表示可能

「避難指示解除」に向けた取り組み

- 実施日： 2019年4月(大熊町)、2017年4月(富岡町)、2017年3月(飯舘村)
2016年7月(南相馬市)、2015年8月～10月(檜葉町)
- 実施場所： 福島県 大熊町、富岡町、飯舘村、南相馬市(小高区)、檜葉町
- 実施内容： 避難指示解除前後に各市町村で開催された式典・イベント対応
(会場設営・運営補助等)
- 実績： 延べ734人
(大熊町13人、富岡町48人、飯舘村40人、南相馬市 15人(式典参列)、檜葉町 618人)



【「新庁舎開庁式」の様子(大熊町)】
(2019年4月14日)



【「まちびらきイベント」の様子(大熊町)】
(2019年4月14日)



【「復興の集い2017」の様子(富岡町)】
(2017年4月8日)



【「いいいてむらおかえりなさい式典」の様子(飯舘村)】
(2017年3月31日)



【「避難指示解除宣言」の様子(南相馬市)】
(2016年7月12日)



【「キャンドルナイト」の様子(檜葉町)】
(2015年9月4日)

■実施日：	広野町	2012年3月～	南相馬市	2012年4月～	楢葉町	2012年8月～
	富岡町	2013年5月～	浪江町	2013年7月～	川内村	2013年7月～
	川俣町	2014年2月～	大熊町	2014年5月～	田村市	2014年5月～
	双葉町	2014年8月～	葛尾村	2014年10月～		

■実施場所：福島県 広野町、南相馬市、楢葉町、富岡町、浪江町、川内村、川俣町、大熊町、田村市、双葉町、葛尾村

■実施内容：家屋内の片付け、清掃、屋外搬出

■実績：延べ134,238人（2020年2月末現在）



【片付けの様子】（2015年7月5日）



【片付け前の様子】（2015年7月5日）



【片付け後の様子】（2015年7月5日）

- 実施日： 2013年8月～
- 実施場所： 福島県 南相馬市、飯舘村、川俣町、浪江町、葛尾村、田村市、双葉町、大熊町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町、いわき市
- 実施内容： 公道から住宅への進入路および駐車スペースで支障になっている箇所の除草
- 実績： 延べ121,121人(2020年2月末現在)



【除草の様子】(2019年9月6日)

【除草後の様子】(2019年9月6日)



【除草前の様子】

【除草後の様子】

除草作業（墓地）

更新

- 実施日：2013年3月～
- 実施場所：福島県 南相馬市、川俣町、浪江町、葛尾村、田村市、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町
- 実施内容：墓地の除草および清掃
- 実績：延べ32,575人（2020年2月末現在）



【除草前の様子】(2019年7月)



【除草後の様子】(2019年7月)

除草作業（公共施設）

更新

- 実施日：2013年5月～
- 実施場所：福島県 南相馬市、飯舘村、川俣町、浪江町、葛尾村、田村市、双葉町、大熊町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町、いわき市
- 実施内容：学校や公園、神社等の公共施設の除草および清掃
- 実績：延べ43,875人（2020年2月末現在）



【除草前の様子】(2015年5月)



【除草後の様子】(2015年5月)

荷物移動・整理（役場）

■実施日：2016年6月25日

■実施場所：福島県 福島市(仮庁舎) → 飯舘村役場(本庁舎)

■実施内容：福島市(仮庁舎)から飯舘村役場(本庁舎)への機能移転(荷物の搬出入)

■実績：19人



【搬入の様子】(2016年6月25日)



【搬入の様子】(2016年6月25日)



【搬出前の様子】



【搬出後の様子】



【搬入前の様子】



【搬入後の様子】

2.復興推進活動

荷物移動・整理（図書館）

- 実施日：2015年3月4日
- 実施場所：福島県 双葉町（双葉町図書館）
- 実施内容：震災により散乱した書籍類整理および館内清掃（1階図書館、2階職員室）
- 実績：35人



【書籍類整理前の様子】(2015年3月)



【書類整理後の様子】(2015年3月)

荷物移動・整理（公民館）

- 実施日：2015年3月25日～3月27日
- 実施場所：福島県 檜葉町公民館、檜葉町コミュニティセンター
- 実施内容：震災後、檜葉町コミュニティセンターに仮置きしていた備品を、災害復旧工事が完了した公民館へ移動・格納（震災前の保管状態に復元）
- 実績：延べ60人



【公民館の作業前の様子】(2015年3月)



【公民館の作業後の様子】(2015年3月)

地域の施設再建

新規

- 実施日：2019年8月7日、8日、10月7日、28日
- 実施場所：福島県 双葉町、浪江町（両町にまたがる神社）
- 実施内容：諏訪神社再建に向けた木材の荷揚げや境内の除草・清掃
- 実績：延べ23人



【木材荷揚げの様子】(2019年8月8日)



【境内の除草の様子】(2019年10月28日)

仮設住宅の除雪

更新

- 実施日：2012年12月10日～
- 実施場所：福島県 会津若松市、会津美里町内の大熊町・檜葉町仮設住宅等
- 実施内容：仮設住宅の屋根の雪下ろしや、生活通路確保のための敷地内除雪
- 実績：延べ4,573人(2020年月2月末現在)



【仮設住宅の除雪の様子】(2017年2月)

■実施日：2011年5月23日～

■実施場所：福島県 浪江町(高瀬・津島・加倉)

■実施内容：帰還困難区域の住民の方々がマイカーまたはマイクロバスで一時帰宅される際の中継基地における受付時(防護服・線量計配布)、帰着時(線量測定)の対応

■実績：延べ93,170人(2020年2月末現在)



【来場受付の様子】(2018年9月)



【車両の線量測定の様子】(2018年9月)



【車両の誘導の様子】(2018年9月)



【足裏の線量測定の様子】(2018年9月)

営農再開等に向けた対応（牛舎の清掃）

更新

- 実施日：2018年7月～
- 実施場所：福島県 葛尾村、飯舘村
- 実施内容：酪農の再開に向けた牛舎の清掃等を実施
- 実績：延べ195人(2020年2月末現在)



【牛舎清掃の様子(葛尾村)】(2018年8月)



【牛舎清掃の様子(飯舘村)】(2019年8月)

営農再開等に向けた対応（侵入防止柵の設置）

- 実施日：2019年4月～6月
- 実施場所：福島県 飯舘村
- 実施内容：カスミソウ栽培に伴うビニールハウスの排水路整備の実施
- 実績：延べ22人(2019年9月末現在)



【側溝掘りの様子】(2019年4月19日)



【側溝掘りの様子】(2019年6月27日)

イベント対応（大熊町「おかえり！なつ祭り in おおくま」）

■実施日：2019年9月6日、7日〔会場設営・駐車場誘導・片付け〕

■実施場所：福島県 大熊町

■実施内容：大熊町コミュニティづくり実行委員会の一員として企画に参画。櫓の組立て等の会場設営に協力し、社員も町民の皆さまと一緒に盆踊りやバーベキューに参加

■実績：延べ19人〔お祭り参加：約80人〕



【櫓組立ての様子】(2019年8月9日)



【盆踊りの様子】(2019年8月10日)

イベント対応（南相馬市・浪江町「相馬野馬追」）

■実施日：2019年7月27日、28日〔行事〕

2019年6月21日、7月4日、8日～11日〔除草〕

7月17日～19日〔道路清掃〕

7月27日、28日〔会場設営・車両誘導・お行列参加〕

■実施場所：福島県 南相馬市・浪江町

■実施内容：相馬野馬追の開催に向けた相馬小高神社境内の除草や、お行列のルートとなる道路の清掃を実施。小高郷（南相馬市小高区）のお行列に参加の他、各会場での会場設営や式典終了後の片付け、車両誘導に協力

■実績：延べ318人



【御行列への参加の様子】(2019年7月28日)



【車両誘導の様子】(2019年7月28日)

■実施場所：福島県 南相馬市(小高区と原町区の一部)、飯舘村、川俣町(山木屋地区)、浪江町、葛尾村、大熊町、富岡町、楡葉町

■実施内容：各地域において巡回や地域の皆さまへのお声掛け、ご自宅や集会所等へお伺いするほか、専用の連絡先にお電話をいただくなどして、ご要望を承りお手伝いを実施

【見回り活動】

車で巡回しながらお声かけさせていただき、ご自宅周辺の除草や清掃、家具・重量物の移動や片付け等のご要望をいただいた場合にお手伝いを実施

【駆けつけ活動】

住民の皆さまよりご要請をいただき、ご自宅周辺の除草や清掃、家具・重量物の移動や片付け等の簡易な作業を当社社員が即時駆けつけ、お手伝いを実施

活動内容	市町村	開始時期	面会軒数	お手伝い実施件数
見回り活動	楡葉町	2015年6月1日～	1,830軒	319件
	川俣町	2015年8月31日～	767軒	130件
	葛尾村	2015年8月31日～	1,588軒	170件
	南相馬市	2015年10月21日～	3,134軒	14件 ※
	富岡町	2016年9月17日～	794軒	429件
駆けつけ活動	浪江町	2016年11月22日～	382軒	361件

※2018年4月より採録

(2020年2月末現在)



【巡回中の様子(南相馬市)】(2015年11月)



【面会の様子(川俣町)】(2019年9月11日)



【駆けつけ車両(浪江町)】(2016年12月)



【駆けつけ活動の様子(浪江町)】(2019年3月)

2.復興推進活動

学校再開に向けた協力

■実施日：2013年3月～

■実施場所：福島県 飯舘村、川俣町、浪江町、葛尾村、富岡町

■実施内容：各町村内での認定こども園や小中学校の再開に向けた、清掃・片付け、除草、荷物移動および学校行事等のお手伝いを実施

■実績：延べ5,130人



【荷物移動の様子(葛尾村 葛尾小中学校)】(2018年3月27日)



【清掃の様子(浪江町 なみえ創成小中学校)】(2018年3月22日)

放射線量測定対応

更新

■実施日：2018年2月15日,22日、3月2日～4日 [大熊町]
2019年8月6日、10月22日,29日、11月22日 [双葉町]

■実施場所：福島県 大熊町、双葉町

■実施内容：大熊町立大野小学校での「思い出の品」の持ち出しに伴う、教室等の事前放射線量測定、清掃、会場設営および双葉町立双葉北小学校内に埋めたタイムカプセル掘り起こし後の「思い出の品」の持ち出しに伴う、除草や持ち出し品の放射線量測定を実施

■実績：延べ17人



【放射線量測定の様子(大熊町 大熊小学校)】(2018年2月15日)



【放射線量測定の様子(双葉町 双葉北小学校)】(2019年11月22日)

2.復興推進活動

福島県内への派遣活動

- 実施日：2011年5月～
 - 実施場所：○復興推進活動のため、本社や各事業所・発電所等から、バスで福島県内へ社員を派遣
○活動前には、活動に必要な情報共有のためのガイダンスや研修を実施
 - 実績：ほぼ毎日、片道数時間かけて1台のバスに約35名の社員が乗車
(最大1日3台運行実績有り)
- 【参考】乗車時間：東京→福島 約3時間半／柏崎刈羽原子力発電所→福島約5時間
1日平均200人以上の社員が福島県内各地で復興推進活動を実施



【バスへ乗り込む社員(東京:鍛冶橋)】(2013年11月)

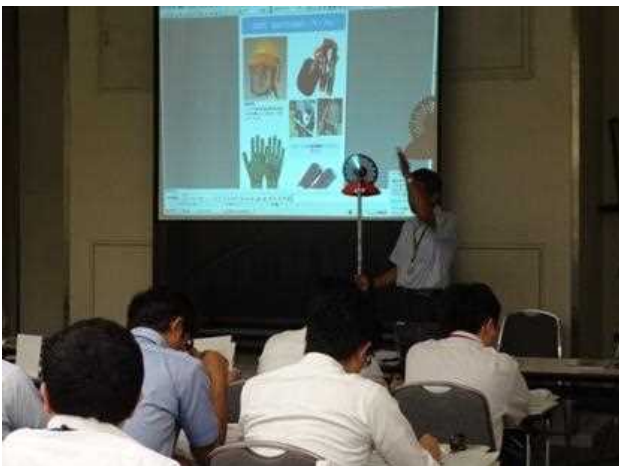


【ガイダンスの様子】(2017年8月)

刈払機の安全教育

更新

- 実施日：2013年4月～
- 実施内容：除草作業に使用する刈払機の使用にあたって、事前に安全教育(座学・実技)を実施し、福島県内の各地へ社員を派遣
- 実績：修了証発行者数は延べ約30,600人(2020年2月末現在)



【刈払機の安全教育(座学)】(2014年7月)



【刈払機の安全教育(実技)】(2016年2月)

- 檜葉町では、2017年より農業復興プロジェクトとしてサツマイモ栽培を実施しており、当社は、苗植えや収穫などの作業面でお手伝いを実施
- 農業復興プロジェクトには、「白ハト食品工業(株)」様が参画しており、同社の子会社である「(株)しろはとファーム」様は、2019年4月に「(株)福島しろはとファーム」を設立し、檜葉町での本格的なサツマイモ生産事業と生産規模の拡大を計画
- 当社は、2019年10月に「(株)福島しろはとファーム」へ出資
- 2020年度は、サツマイモの収穫量の安定確保に向けて、耕作面積を50haまで拡大する計画

1. これまでの主な取り組み（2017年～）



苗切り【4月～5月】



苗植え【4月～5月】



収穫前の準備【9月～11月】



収穫【10月～11月】

2. 収穫祭の開催（2019年11月）

【福島ゴールド 収穫祭2019】

- ◆主 催：(株)福島しろはとファーム
- ◆場 所：アンフィニ(株)福島工場様付近
※檜葉町字下繁岡北谷地16
- ◆内 容：檜葉町内こども園の園児の皆さま
約30名を含む約100名が参加し、
サツマイモを収穫



収穫された「福島ゴールド」

3.流通促進活動

福島県産品販売促進活動（社内）

更新

- 実施日：2011年11月～
- 実施場所：本社および各事業所
- 実施内容：社員一人ひとりが福島県産品を購入するよう、本社をはじめ各事業所で福島県産品の社内販売会等を実施
- 実績：約80事業所 延べ886回開催（2020年1月末現在）



【EP販売会】(2020年1月23日)



【本社販売会】(2020年1月24日)

福島県産品販売促進活動（社外）

更新

- 実施日：2013年9月～
- 実施場所：各社本社ビル・工場内等
- 実施内容：企業主催の社内販売会や夏祭り・イベント等での販売サポートを実施
- 実績：44社等 延べ123日間開催（2020年1月末現在）



【社外イベント】(2020年1月11・12日)



【社外イベント】(2019年10月20日)

<福島県産食材の販路拡大に向けた取り組み>

- 実 施 日：2018年4月1日～
- 実施内容：多くの方に福島県産のお米や桃、福島牛などの美味しさや魅力をお伝えし、福島県産品の定番化に繋げることを目的に、首都圏の小売店や飲食店と協力した販売促進イベントやフェア等を実施
- 実 績：延べ4,357日（2020年2月末時点）



【福島県産米試食販売会の様子】(2020年1月)
(東急百貨店様 池袋店)



【福島牛試食販売会の様子】(2020年2月)
(そごう様 大宮店)



【常磐もの 試食販売会の様子】(2019年11月)
(松坂屋様 上野店)



【福島の桃 販売会の様子】(2019年8月)
(東武百貨店様 池袋店)

3.流通促進活動

福島県産品の販路拡大に向けた取り組み（小売店）

<ふくしまのお酒の常設販売（新規開拓）>

- 実施日：2018年4月～6月：特別試飲キャンペーン 2019年1月1日～10銘柄が常設棚で販売開始
- 実施内容：東京国際空港ターミナル株式会社様、福島県酒造協同組合の蔵元様のご協力を得て、羽田空港国際線旅客ターミナル免税店で「ふくしまのお酒」に限定した「福の酒」特別試飲キャンペーンを実施
- 実績：同キャンペーンの反響・成果を踏まえ、2019年1月より同ターミナル内の免税店で「ふくしまのお酒」10銘柄が初めて常設棚で販売開始



【試飲キャンペーンの様子】



【常設化となった店舗の様子】

福島県産品の販路拡大に向けた取り組み（飲食店）

更新

<JR名古屋駅での福島フェア！「発見！ふくしま」を開催>

- 実施日：2019年9月17日～10月11日
- 実施内容：2018年9月、2019年3月に続き、ジェイアール東海フードサービス株式会社様のご協力を得て、福島県産品の美味しさや魅力を多くの方に知っていただくためにJR名古屋駅構内5店舗で福島県産品を使用したメニュー7品をご提供するフェアを開催
- 実績：福島県産品が名古屋名物とコラボした麓山高原豚の味噌カツ定食などが提供された
また、東京人形町にある創業250年の老舗鳥料理屋「玉ひで」八代目がプロデュースする「川俣シャモの親子丼」は、フェア開催後も「とり五鉄」で継続して提供中



【福島フェア「発見！ふくしま」の様子】



【川俣シャモの親子丼】

福島県産品の販路拡大に向けた取り組み（飲食店）

<福島県産品ブランド力向上に向けた取り組み>

- 2018年5月に都内で開催されたフードサービス研究会様の例会にて、福島県産品に関する講演・試食会を開催。会員様に福島県産品への理解を深めていただくとともに、品質や美味しさを実感いただいた
- 2018年10月には、同研究会の会員である老舗・名店の飲食店様7社をお招きし、JA全農福島様のご協力のもとで、福島牛・川俣シャモの産地見学会および試食会を開催
- 現地での肥育・繁殖状況の視察や生産者様との直接対話、また福島県産品の魅力や美味しさに改めて触れていただける機会を設定。2019年2月からの各店舗様における福島牛・川俣シャモの特別メニューの提供に進展
- さらに、福島県産品のブランド力を広げるため、媒体等を活用した情報発信を展開

<取り組みの流れ>

① フードサービス研究会様での講演・試食会の開催【2018年5月16日】

■ 第1部 講演の様子



■ 第2部 試食会の様子



② 福島牛・川俣シャモの産地見学会および試食会の開催【2018年10月30・31日】

■ (株)美土里耕産様(本田農場)



■ (株)川俣町農業振興公社様



■ (有)いしがみ牛様(小倉敏孝様)



■ JA東西しらかわグリーンファーム様



■ JA全農福島直売所(愛情館)様



<フードサービス研究会様の概要>

飲食サービス業会員の結束と協力により、その地位向上と相互の親睦を図り、消費者に貢献することを目的に、昭和49年3月に設立。今期で45周年を迎える老舗を含む全国の有名外食企業経営者等45名で構成される任意団体

「福島応援」の輪

【福島県産品の流通拡大に向けた取り組み】

- ・「発見！ふくしま」キャンペーンの展開
- ・ふくしま応援企業ネットワークとの連携
- ・福島県など関係者様との連携
- ・生産者様と飲食店企業様とを繋ぐ活動
- ・LINEや当社ホームページ等を活用した情報発信

③ 福島牛・川俣シャモの特別メニューの提供および情報発信【2019年2月1日～3月31日】



■ グルメ雑誌「dancyu 2月号」にて紹介

■ 試食会



<参加いただいた方からの声>

- 生産者様の人柄に触れ、福島県の豊かな自然の中で、しっかりと整えられた環境の下、元気に育つ福島牛や川俣シャモを直に見ることができて良かった
- 風評被害に負けずに頑張っている姿が印象的であり魅力を感じた
- (福島牛を試食して)脂がしつこくなくて美味しい

福島県産品の風評被害払拭に向けた取り組み

＜羽田空港国内線ダイヤモンド・プレミアラウンジでの福島県産米「天栄米」のご紹介＞

- 実施日：2019年5月17日～26日
- 実施内容：日本航空株式会社様のご協力を得て、「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」において9年連続金賞に輝いた「天栄米」を羽田空港内にある日本航空（株）様ダイヤモンド・プレミアラウンジで10日間にわたりご紹介を実施
- 実績：7,300名様に2合300gの天栄米を配布・ご紹介



【天栄米配布・ご紹介の様子】



【お配りした天栄米】

福島県産品の風評被害払拭に向けた取り組み

更新

＜LINEによる生産者様などに関する情報配信開始＞

- 実施日：2019年4月～
- 実施内容：美味しい福島のお米・牛肉・桃の魅力、肥育に取り組む生産者様の苦労話の他、受賞までに至る思いをつづったドキュメントなどについて、生産者様をはじめ、料理研究家や管理栄養士、バイヤー様などからご紹介いただくコンテンツを計18回配信

【知った情報が満載！おいしいふくしま】



【お米と牛肉 ～お米編～】(2019年11月)



【お米と牛肉 ～お肉編～】(2020年1月)

「発見！ふくしま」キャンペーンの実施

更新

- 実施日：2019年10月11日～2019年12月20日
- 実施内容：消費者の皆さまが福島県産品に触れて体験する機会を増やすことで、より多くの方にご自身でその美味しさや魅力を知っていただく「発見！ふくしま」キャンペーンを、「食べて実感、ふくしまの秋」と題して2018年度に引き続き実施
福島ファンの輪を広げ、45社167店舗で定番化（常設棚での福島県産品販売や飲食店での定番メニュー提供）

〔①小売店での試食販売会の開催〕

- 実施期間：2019年10月11日～12月20日
- 実施場所：首都圏の百貨店やスーパーなど
- 実績：福島の新米時期に合わせ、昨年を上回る小売店で集中的に試食販売会を開催し、目標（約2万人）の2倍を超える約46,000人の消費者の皆さまに「美味しい体験」を提供させていただいた



福島県産米試食販売会の様子
北千住マルイ様(北野エース様)



福島牛試食販売会の様子
西武百貨店様 池袋本店(柿安様)



福島牛試食販売会の様子
東京ソラマチ様(ニュー・クイック様)

〔②食べて実感 福島牛グルメフェアを展開〕

- 期間：2019年10月1日（火）～11月30日（土）
- 場所：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県 38店舗
- 実績：昨年度の飲食店フェアを大幅に上回る店舗で集中的に福島牛を扱ったメニューを提供し、目標の約5,000食を超える約9,300食の福島牛メニューを販売
店舗では、「発見！ふくしま」の「のぼり」を設置していただくとともに、店員の皆さまが積極的に福島牛メニューおすすめしていただいたこともあり、多くの皆さまに福島牛の美味しさを味わっていただいた



福島牛グルメフェアの様子(摩天楼様)

〔③LINE友だち登録数100万人到達〕

- 福島ファンのネットワークであるLINE「ふくしま応援隊」の友だち登録数が目標の100万人に到達（2020年1月末時点 約106万人）
- ふくしまのファンとなっていた消費者の皆さまに、福島県産品販売イベント情報や友だち限定のお得情報など、今後も魅力ある福島に関する情報を発信していく



配信画像の一覧

3.流通促進活動

ふくしま応援企業ネットワークの取り組み① (<http://fukushima-oknet.com/>)

■ 福島県産品や観光の風評払拭に向けた活動の輪を広げ、その活動の定着を図ることを目的に
2014年11月の立ち上げ以降、会員企業も倍増し、活動を展開

設立日 2014年11月18日 設立

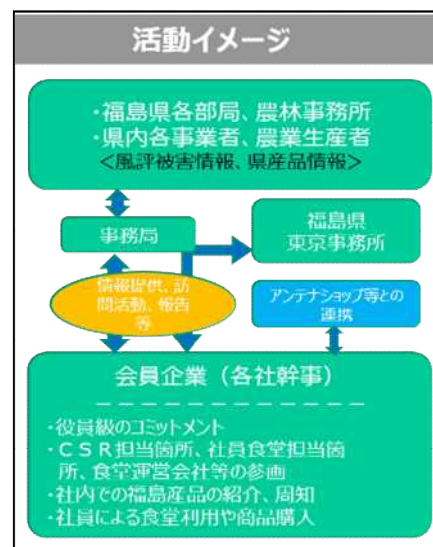
会 長 畠澤 守 様 東芝エネルギーシステムズ株式会社
代表取締役社長

構 成 福島で廃炉作業等に携わり地域の実情を理解されている
大手企業10社と当社で発足

活 動 会員各企業がそれぞれ創意工夫をしながら福島を応援

- ・ 福島県産品の購入促進※
 - ・ 福島県内の観光や会議施設の利用促進
 - ・ 福島県産品の安全性について現地視察研修
 - ・ 各企業が実施している活動事例の紹介と共有
- ※ 社員食堂での食材利用、社内販売会(産直市)等

会員企業【134社】2019年9月末現在



直近の実績

項目	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績
■ 社員食堂での福島県食材の購入促進				
県産米消費量	764トン	816トン	790トン	877トン
特別メニュー提供	約31,000食	約43,000食	約88,000食	約170,000食
■ 企業マルシェの開催（産直市）				
開催回数	306回	354回	269回	285回
売上金額	約11,500万円	約14,000万円	約14,000万円	約15,000万円
■ 贈答品、記念品での福島県産品の普及拡大				
購入金額	約900万円	約2,000万円	約860万円	約2,700万円

ふくしま応援企業ネットワークの取り組み②

更新

【フォーラム・レセプション】

日 時：2019年9月6日 13時30分～
場 所：Jヴィレッジ
内 容：①基調講演（福島県）
内 容：②会員企業発表（4社）
内 容：③レセプション（福島食材メニュー）

【定時総会・視察会】

日 時：2019年9月7日 8時30分～
場 所：Jヴィレッジ
内 容：①役員選任
内 容：②活動概況説明、ふくしままつり協力依頼
内 容：③廃炉資料館・ロボットテストフィールド視察



4.雇用創出等福島復興に資する取り組み

構築した事業体制による世界最新鋭の石炭火力発電所の建設・運営

- 2016年10月、三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、常磐共同火力(株)と当社の5社にて、「勿来IGCCパワー合同会社」※1と「広野IGCCパワー合同会社」※2による、発電所の建設・運営を実施する事業体制を構築
- 同事業を通じ、建設工事・資材発注および運用後の定期点検などによる産業基盤の創出の推進に貢献

※1 5社が出資(三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、東京電力ホールディングス(株)、常磐共同火力(株))

※2 4社が出資(三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、東京電力ホールディングス(株))

■ 勿来IGCCパワー合同会社 (Nakoso IGCC Power GK)



設立：2016年8月2日
代表社員：三菱商事パワー(株)
資本金：100百万円
事業地：福島県いわき市岩間町
設備規模：定格出力54万kW 1基
運転開始：2020年9月(予定)



■ 広野IGCCパワー合同会社 (Hirono IGCC Power GK)



設立：2016年8月2日
代表社員：三菱商事パワー(株)
資本金：100百万円
事業地：福島県双葉郡広野町
設備規模：定格出力54万kW 1基
運転開始：2021年9月(予定)



中小経年水力発電所の設備改修

- 猪苗代水系「日橋川発電所」・「金川発電所」の設備改修工事期間中の県内雇用の創出、県内事業者からの工事資機材等の調達を推進

改修工事概要

「日橋川発電所」

- ◆ 発電設備の改修
 - ✓ 既設発電設備の撤去
 - ✓ 発電設備の新設
- ◆ 発電所建屋の改修
 - ✓ 既設建屋の撤去
 - ✓ 建屋の建設
- （水車発電機全3台
最大出力
10,600kW⇒11,000kW（約4%増））
- ◆ 運転開始 2020年度中

（発電機撤去工事）



「金川発電所」

- ◆ 発電設備の改修
 - ✓ 既設発電設備の撤去
 - ✓ 発電設備の新設
- （水車発電機全1台
最大出力
6,500kW⇒7,100kW（約9%増））
- ◆ 運転開始 2019年10月3日

（発電設備の設置工事）



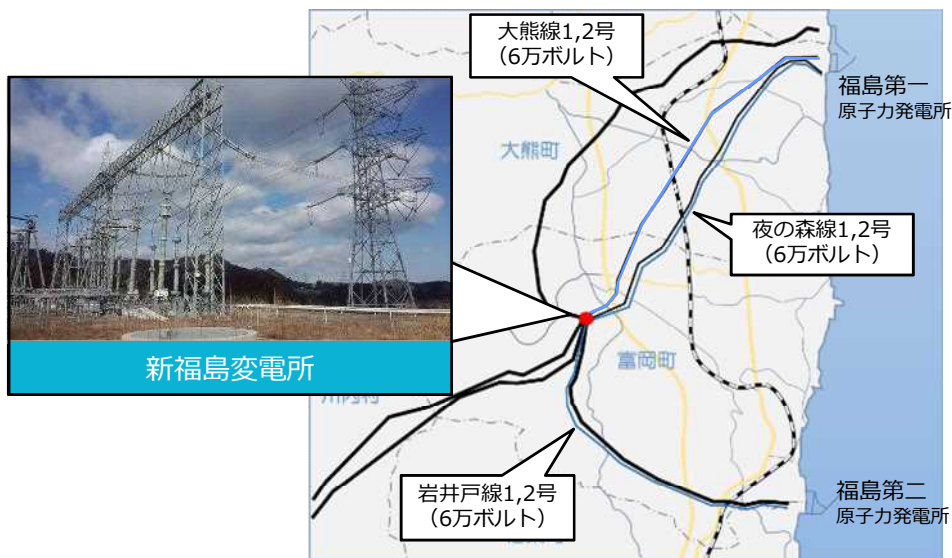
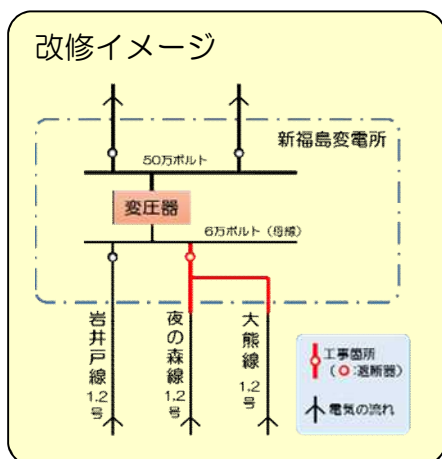
発電所の位置



4.雇用創出等福島復興に資する取り組み

福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力①（新福島変電所の設備改修）

- 2017年3月、県内再生可能エネルギーの普及に向けた、合計13万kWの再エネ接続が可能となる新福島変電所内の機器改修工事や送電線接続工事が竣工



福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力②（送電網建設・運営会社設立）

更新

- 2017年3月、「福島新エネ社会構想」※に基づく阿武隈山地および福島県沿岸部における再生可能エネルギーの導入拡大に向け、福島発電(株)、(株)東邦銀行と当社の3社により、送電線の建設ならびに運営を担う事業会社「福島送電合同会社」を設立（2019年12月に株式会社へ移行）
- 同事業において、送電線・変電所の設計及び建設を実施し、2020年1月より一部運用開始

※2016年3月に「福島新エネ社会構想実現会議」が発足、同年9月に「福島新エネ社会構想」を取りまとめ

事業会社の概要

■ 福島送電株式会社

設立：2019年12月9日
 （2017年3月15日、福島送電合同会社として設立、
 2019年12月9日に株式会社へ移行）

代表取締役：佐々 恵一

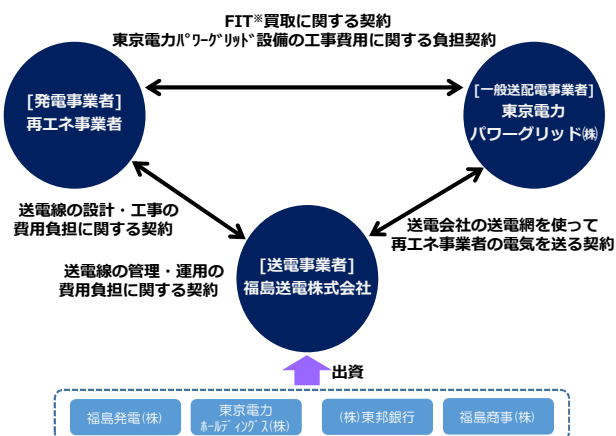
資本金：1,300万円

事業地：（本社）福島県福島市中町5番21号

出資比率：福島発電(株) (39.23%)
 東京電力ホールディングス(株) (37.69%)
 (株)東邦銀行 (11.54%)
 福島商事(株) (11.54%)

事業内容：阿武隈山地、福島県沿岸部における送電線・変電所の設計、建設及び運営管理など

事業イメージ



※FIT制度（固定価格買取制度）：再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度

「東京電力廃炉資料館」

更新

■ 設置の趣旨

発電所周辺地域をはじめとした福島県の皆さま、そして国内外の多くの皆さまが、原子力事故の事実と廃炉事業の現状等をご確認いただける場として、「東京電力廃炉資料館」を当社施設である「旧エネルギー館(福島県双葉郡富岡町)」に設置いたしました

※2020年2月29日 来館者数 約58,000人

■ 施設の概要

- 名 称 : 東京電力廃炉資料館
- 所 在 地 : 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央378番地 (旧エネルギー館)
- 開 館 : 2018年11月30日
- 建 物 概 要 : 【階層】2階建 【展示面積】約 1,900㎡
- 施 設 情 報 : 【開館時間】9:30～16:30 【休館日】毎月第3日曜日・年末年始
【入館料】無料(駐車場無料)



「東京電力廃炉資料館」の外観

■ <プロローグ>

東京電力からのご挨拶文で、来館される皆さまをお迎えます



■ <記憶と記録・反省と教訓>

原子力事故を振り返り、その反省と教訓をお伝えします



■ <廃炉現場の姿>

廃炉事業の全容と最新の現場の状況をお伝えします



■ <情報スペース>

福島復興への取り組み、原子力や放射線等の情報をご覧いただけます



迅速な原子力損害賠償に向けた組織体制

更新

- 損害賠償の迅速かつ適切な実施のための方策「3つの誓い」を踏まえ、被害を受けられた皆さまに早期に生活再建の第一歩を踏み出していただくため、必要な体制を弾力的に整備しつつ、賠償を進めております
- 今後も業務の運用改善等を図ることにより、引き続き最大限努力してまいります



【福島原子力補償相談室配属前研修の様子】

福島原子力補償相談室 約2,340人

全
体
の
支
援
・
管
理

約
270
人

補償相談ユニット

補償相談センター
(8カ所) 約770人

補償相談コールセンター
約70人

補償推進ユニット
約920人

ADR・訴訟ユニット
約170人

公共補償センター
約150人

うち福島県内は約560人 (2020年3月1日時点)

補償相談センター

更新

- 設 置 数: 8カ所(福島県内5カ所、福島県外3カ所)
- 業務内容: ○賠償に関する説明会・相談対応、ご請求書の作成支援・受付、現地確認・説明
○主に相談窓口(福島県内に12カ所。※2020年2月末時点)やご訪問先にて業務を実施
- 実 績: 窓口での受付対応件数 約688,200件、説明会開催件数 約1,900件、説明会へのご来場者数約36,900人、戸別訪問件数 約177,600件(復興本社設立以降～2020年2月末時点)



【相談窓口】



【個別相談ブース】(ご来場をお待ちしている様子)

補償相談コールセンター

更新

- 業務内容：○電話による賠償に関する問い合わせ、請求書の郵送手配・記入方法に関するご相談対応
○最後の一人まで適切に賠償を行うため、賠償金を未だに請求されていないご相談者さまへ電話を通じて請求のご案内
- 受付時間：9時～19時(月～金(除く休祝日))、9時～17時(土・日・休祝日)
- 実績：ご相談者さまからいただいたお電話の本数は約253万本
(コールセンター設立以降、2020年2月末までの累計)



【補償相談コールセンターの様子】

補償推進ユニット

更新

- 業務内容：○ご請求書類の発送・受領、ご請求内容の確認、賠償の考え方についてのご説明・協議、賠償金額の算定およびお支払いの手続き
○ご請求内容の確認には、「個人賠償」「法人賠償」「財物賠償」に大別し、迅速かつ公正な賠償の実施に努めております



【補償推進ユニットの様子】

活動実績（2020年2月末現在）

＜除染推進活動＞

項目	内容	対応人数実績
除染(国直轄・市町村)への対応	除染作業現場における工事管理業務等への対応、除染後のフォローアップ業務への対応等	約203,800人
廃棄物・リサイクル等への対応	滞留中の牛糞堆肥運搬・施用を促進するスキームへの対応、残置自動車 [*] 撤去・処分への対応等 ※避難指示区域内	約15,000人
中間貯蔵への対応	試験輸送への対応、中間貯蔵に係る業務の技術的支援および調査・検討等	約110,000人
環境回復・コミュニケーションへの対応	放射線不安の低減に向けたモニタリングへの対応、産業再開に向けた測定・分析支援等の技術サポート等	約22,000人
その他	技術開発関連、除染に係る検討・提案等	約40,700人
合 計		約391,500人

＜復興推進活動＞

項目	内容	対応人数実績
清掃・片付け	住宅・公共施設等の清掃・片付け	約134,000人
除草作業	住宅等への進入路・墓地・公共施設等の除草	約198,000人
荷物移動・整理	学校・役場等・公民館等の荷物移動・整理	約1,800人
除雪作業	住宅・公共施設・仮設住宅等への進入路の除雪	約4,500人
一時帰宅対応	一時帰宅対応、住民スクリーニング、測定対応等	約93,800人
営農再開等に向けた対応	牛舎清掃・電気柵の通電確認・側溝の泥上げ等	(約21,100人) * 除草・清掃・片付け 荷物移動に含まれる
その他	イベント対応、お声掛け・訪問活動 等	約79,000人
合 計		約511,000人

本写真集の一部をインターネット上に掲載するなど、他の媒体に転載することは、当社の著作権の侵害になるとともに、被写体の肖像権（人格権）の侵害となるおそれがあります。ご使用になる際は、当社へご相談下さい。